統計の眼

梅産地の基盤を支える地場産業の形成

和歌山県は温暖な気候に恵まれ、古くから果樹栽培が盛んな地域であり、現在では梅の主産地となっている。全国の梅生産の過半を占めているが、とりわけ田辺市周辺と隣接する南部郷は和歌山県を代表する産地となっている。

梅の主産地であるとともに、梅に関連する加工業者や卸業者、観光業も発達し、梅の生産から加工・流通、消費に至る地場産業が形成されているのも大きな特徴である。

同地において梅の生産が盛んになったのは、南高梅という梅干しに適した品種があったこと、みかん危機に伴う価格の暴落や水田転作で転換が進んだことなどの要因がある。同時に地域の特産物として振興をはかり、地場産業としての基盤が形成されたことが、他県の追随を許さない大きな要因ともなっている。

紀州梅の産地である和歌山県南部地区、田辺市には約二五〇ほどの梅干し二次加工業者が存在する。こうした二次加工業者は、梅の製品開発や需要創造に取組み、紀州梅の消費拡大と地域の活性化に大きく貢献した。昭和五〇年代に、一次加工の梅干し（白干し梅）を加工したかつお梅などの調理梅が発売され、飛躍的に需要を伸ばした。これが契機となって、梅栽培も大きく拡大し、地域の基幹産業を形成するまでになった。

二次加工業者としては、地域の小さな加工場や家内工業から発展し、商店や有限会社、株式会社など様々な事業体が共存し、少量多品種のニーズに対応する体制も整備された。二次加工業者の組織する、紀州田辺梅干協同組合や南部梅干協同組合、地域の梅振興協議会なども組織され、行政も熱心に支援している。梅の需要創造には、こうした地場産業組織による製品開発や販売努力に負うところが大きく、生産振興とも結びついて、現在の紀州梅の地位を確立するまでになっている。（鴻巣　正）

梅の主産県における収穫量の推移

（単位）梅収穫量：t
全国割合：%

	昭和50年産	昭和60年産	平成７年産	平成12年産
梅収穫量（全国）	62,500（100%）	79,700（100%）	121,000（100%）	121,200（100%）
和歌山県	11,200（18%）	28,400（36%）	61,300（51%）	66,800（55%）
群馬県	5,670（9%）	4,670（6%）	8,340（7%）	9,140（8%）
長野県	3,140（5%）	6,220（8%）	6,500（5%）	4,050（3%）
徳島県	3,380（5%）	2,830（4%）	3,880（3%）	3,290（3%）
山梨県	3,290（5%）	4,020（5%）	3,340（3%）	2,310（2%）

（資料）農林水産省統計情報部「果樹生産出荷統計」より作成